

苫小牧市立清水小学校学校だより

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

第5号 令和2年7月22日発行

TEL 33-7285
simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

小学生の夏休み



校長 堀田 稔

ある日の朝、「夏休みは楽しみですか？」と子ども達に聞いてみると、ほとんどの子ども達が笑顔いっぱいに「楽しみ！」と答えると同時に、「こんなことするよ」「ここに行く予定だよ」と楽しそうに話しかけてきます。春だから、秋だから、冬だからとその季節に合った話題や楽しみがいろいろありますが、自分の小学生時代にとって一番行動的になり、思い出が多く、多くの経験をしたのが「夏」だったのではないかと感じています。

皆様はいかがでしょう。この夏休みは小学生だからこそその「感性と目線」で多くの体験をして過ごしてほしいと考えています。

小学生の感性

雨が降っていてもワクワクして、アスファルトの濡れたにおいや水たまりの水の動きの観察をする。晴れの日には虫の動き方や風のおい、植物のおいやその様子を見る。家の中ではお手伝いの掃除の時、ほこりのたまり方や調理の時の野菜や肉の様子をみる。おもちゃやぬいぐるみの構造などをただただ観察する。うちの人のやることを面白そうに見る。数えきれないほどの「なぜ、どうして」が身の回りにいっぱいありました。そして、知りたいことがたくさんあったように思います。

小学生の目線

子ども達は地面からの目の高さや、空からの距離、見えるもの角度の違い、などから、大人と多くのものに対する見方が違ってきます。大人が通り過ぎてしまうような道端のものを見て多くのものを感じたりもします。大人が気づかずにいるものに敏感に反応して、興味を抱く目線を持っています。その目線で物事を考えるので、今まで携わった子供達は「この夏休み楽しかったこと」「興味を持ったこと」などを聞くと、大人とは違う話をしてくれることに驚かされるが多かったように思います。それが大人に近づくと、みんな同じ感想や意見になっていくのが少し寂しく思われます。

今年の夏休みは残念ながら1週間少々ととても少ない日数ですが、「なぜ、どうして」をいっぱい感じるための外遊びや、家でのお手伝い、仕事分担などを楽しんでほしいと思います。

大人になると、世の中の仕組みや道理が理解され、また、興味が向くものが子どもの時と違う方向へ向かってしまい、小学生の感性ではなくなってしまうのは、皆様もご存知のことと思います。しかし、小学生の時の感性や目線が、大人になってからの発明や発見につながったり、思い出がよみがえった時には、心の洗濯などに役立ったりするものだ気づかされます。

小学生目線を持っている今だからこそこの夏休みを過ごして、今後の成長に生かし、役立てて「生きる力」を伸ばしてほしいと願っています。

交通事故やケガに気を付けて、一回りたくましくなった元気な清水小学校の皆さん全員と始業式に会えることを楽しみにしています。すてきな夏休みをお過ごしください。